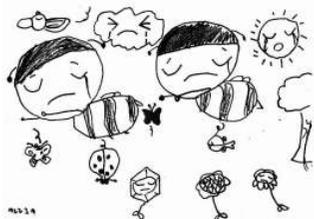


ハチと話せるおじさん  
ミツバチたすけ隊 隊長  
ひさし ふじ お  
久志富士男



1935年長崎県に生まれる。長崎県在住。  
アジア養蜂研究協会会員。日本蜜蜂研究  
研究会会員。20数年前からニホンミツバ  
チの生態研究と普及に専念。「壱岐・五  
島ワバチ復活プロジェクト」主幹。  
戦後、離島で絶滅したニホンミツバチ  
を復活させる。著書『ニホンミツバチ  
が日本の農業を救う』（高文研）。

# ミツバチたすけ隊は ネオニコチノイド系 農薬の使用に 反対します。



ネオニコチノイド系の農薬(稲カメムシ駆除等)は、ミツバチの神経系に影響を与えるため、多くのミツバチが巣を出たきり、帰り道がわからずにのたれ死にしてしまいます。

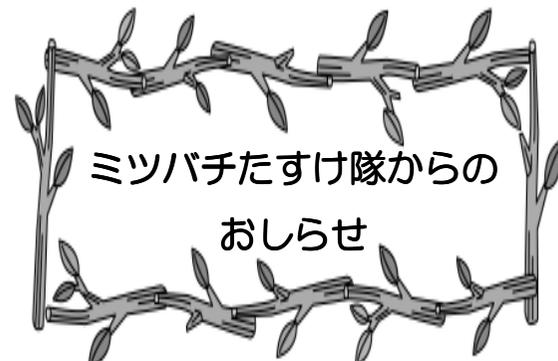
すでに農業国フランスをはじめ、ヨーロッパ各国で相次いで使用中止命令が出されているにもかかわらず、日本ではこれからも大量に使用されようとしています。

このネオニコチノイド系農薬の使用についての問題は、単に農業だけに關するものではありません。ミツバチが成育できる環境を守るとは、他の多くの生き物や、我々人間が健康的に生活できる環境を守ることでもあるのです。

ミツバチたすけ隊  
【代表】  
久志富士男

HP <http://mitsubachi.org/>

問い合わせ・入会・投稿等はHPから  
お願いします。【ミツバチたすけ隊】  
で検索できます。



あなたは  
ニホンミツバチを  
しっていますか？



## あなたは「ハチ」と 聞いたらどんな言葉を 連想しますか？

- ほとんどの人は「刺す」という言葉を連想するのではないのでしょうか。  
でも、ニホンミツバチは人に馴れるのです。いったん友だちになると、よほどのことがない限り人を刺しません。
- ミツバチは、人類の繁栄する以前から、花粉媒介をして花を交配させ、種子を作らせることで、森や草地と共生してきました。人々が農業を始めると、野菜や果物を実らせる手助けもしてきました。
- 明治時代にヨーロッパからセイヨウミツバチが導入され、現在は、農業用ハウス栽培のイチゴやメロンなどの交配を引き受けており、私たちの食卓に貢献しています。
- 現在、欧米で問題になっている、ハチがいなくなる現象、CCD（蜂群崩壊症候群）が起きているのは、このセイヨウミツバチのことです。  
日本でも、2009年、これまでにない大きな被害がでました。

ミツバチがいなければ、農作物は実をつけることもなく、私たちの生活への影響は多大なものになるでしょう。

## ニホンミツバチって どんなハチ？

- 日本には、日本固有の野生のミツバチ、ニホンミツバチが住んでいます。このミツバチが、日本の植物の花粉交配を引き受け、長い年月をかけて森や草地を今の形に作ってきたとも言えます。
- ニホンミツバチが他のハチ類と比べ、最も特徴的なのは、人に馴れるということです。身近なところで飼うと、全く人を刺さなくなります。ミツバチたすけ隊隊長は、蜜を採るときさえ顔には何も被らないし、手袋もしません。
- 天敵のオオスズメバチが巣の入口にやってくると、飼い主のところに来て、悲しそうな羽音で助けを求め、身体にとまったりします。  
セイヨウミツバチは逆で、オオスズメバチに襲われると気が荒くなり、近くにいる人を刺します。飼い主だって刺します。
- 人と同じように喜怒哀楽の感情を持っていて、それを言葉で表現します。言葉は羽音だったり、体毛の動きだったり、お尻から放出する匂いだったり、顎をこすり合わせる音だったりします。

ニホンミツバチと人とは、気持ちを伝えあうことができるのです。

## そのニホンミツバチが 危機にさらされています

- 太古の日本列島は、原始の森に覆われていました。木々は年を取ると洞（うろ）ができます。ニホンミツバチはその洞を住処（すみか）にしていました。現在、そのような洞を持つような年老いた木はほとんどありません。
- 人間は開発を進め、森林を減らし、ミツバチの食糧を奪っています。田んぼや畑には大量の農薬を散布して、ミツバチを死に追いやっています。その結果、人の食卓から野菜や果物が消えようとしています。
- 2009年、長崎県では、ネオニコチノイド系農薬使用を加速させました。その結果、長崎県ではセイヨウミツバチ、ニホンミツバチともに20%程に減ったと推測されます。ミツバチだけでなく、天敵オオスズメバチもいなくなりました。郊外ではツバメもスズメもほとんどいなくなりました。
- 欧米のセイヨウミツバチに起きたCCD（蜂群崩壊症候群）の原因は複雑ですが・・・

ニホンミツバチが消えた理由は、ネオニコチノイド系農薬のためだと、私たちは考えます。

